

毎週火、金曜日発行(但休日に当るときは翌日)
昭和四年四月十五日第三種郵便物認可

鳥取県公報

目次

◇監査公告 各高等学校の定期監査の結果公表

監査公告

鳥取県監査公告第十八号

地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第九百九十九条の規定に基づき、昭和三十五年度にかかる左記各高等学校の定期監査を執行したので、その結果を次のとおり公表する。

昭和三十六年十二月九日

鳥取県監査委員 松本利治
萩原治郎

同 堀江実藏
同 秋久 勲

監査箇所 執行年月日

由良育英高等学校	昭和三十六年八月十六日
東伯実業高等学校	八月十七日
根雨高等学校	八月二十一日
日野実業高等学校	八月二十三日
鳥取盲学校	八月二十五日
岩美高等学校	八月二十八日
鳥取ろう学校	八月三十日
県立高等学校	

今回県立高等学校及び盲、ろう学校に対する昭和三十五年の定期監査を執行したが、その結果各校とも、人的予算的な制約を受けつつも円滑な運営に努力していた。校舍その他施設設備は、各種振興法による国の助成と地元熱意もあつて、著しく整備充実を見つつあるが、な

お、各校とも懸案事項が少くなく、また、教職員の充実、運営経費も充分でない。

殊に、昭和四十年度を頂点とする、生徒の急増に備えての、施設設備と教職員の充実強化対策、昭和三十六年度から一部実施に移した高等学校再編成の強力な推進、定時制運営の再検討等、重要な問題に直面している。県並びに教育委員会当局は、これら諸問題について慎重検討善処し、高校教育の振興に格別の配慮を要望する。

なお各校の共通的事項は概ね次のとおりである。

一 教職員の充実について

1 過去四箇年間における、高等学校職員定数の推移は左表のとおりで、教員については、本年度二〇名、三十六年度には更に八名の増員(うち通信一名、養護教諭三名)があつて、全日制教員は文部省乙号基準に対し九三・四%の充足を見たが、休職者を考

よすれば相当下廻っている。

また、本年度用務員二名、三十六年度には、事務職員八名の増員を見たが、養護教諭は三十六年度増員を含めても僅かに一三名であり、実習助手も甚しく不足し、各校とも相当無理な運営がなされている。

文部省乙号基準程度の確保、養護教諭、実習助手の増員等教職員の充実強化と適正配置、新陳代謝につき当局の一層配慮を望む。

なお、常勤講師は、本年度一八名を定数繰入れ措置をして解消し、また、常勤臨時職員については、三十六年度から準職員制度を採用して、待遇改善に考りよが払われていたが、非常勤講師の手当が少額で、各校とも相当額をPTA等団体に援助を求めている実情である。手当の増額について考りよの要がある。

県立高等学校職員定数表

年度	校長	教員			その他職員			合計
		乙号基準 定数	定算 数	充足率	定時	養教	その他	
三三	二四	七六〇	六六一	八六・九	一八一	一〇	一一	八八七
三四	二四	七九一	六八六	八六・七	一六一	一〇	一一	八九二
三五	二四	七九二	七一五	九〇・二	一四七	一〇	一一	九〇七
三三	二四	七九四	七四〇	九三・二	一四二	一〇	一一	九二七
合計								
					助習	事務	技術	
					職員	職員	用務員	
					計			
								合計
								一、〇八六
								一、〇九三
								一、一〇九
								一、一三一

二 校舍その他施設設備の整備について

1 校舍等施設設備の充実については、本年度も高等学校整備費八三、二七九千余円(うち三十六年度へ繰越額一二、七四六千円)で、鳥取西高等学校外五校につき、老朽危険校舎の改築と不足坪数の解消に努めたほか、産業教育振興法による施設費八、六四二千余円、特別設備費六、三三三千円、設備更新費一、五〇〇千円、その他理科教育振興法等各種振興法の助成を得て、実験実習室等の施設並びに内容設備、備品の整備充実を図っていたが、各学校で述べ

たとおり、なお、不足不備の点が多く、また、毎回の監査で指摘している如く、新設小規模校、定時制分校は地元負担等財源難のため、ややもすれば立退れ、依然として学校差を生じている。

殊に、三十七年度以降入学志望者が急増することは、確定的であり、関係当局はこの際、急増対策、学校差の解消、学校規模の適正化等総合的な観点に立つて、国庫補助金、地元負担等財源確保については特に努力し、円滑な学校運営が期せられるよう整備促進を図る要がある。

鳥取農高 鹿野分校	美和分校	八頭高 若核分校	倉吉東高 夜間	倉吉農高 三朝分校	東伯実業 赤碕高	八橋分校	米子東高 夜間	米子南高 港分校
〓〓〓〓 六五四	〓〓〓〓 六五四	〓〓〓〓 六五四	〓〓〓〓 六五四	〓〓〓〓 六五四	〓〓〓〓 六五四	〓〓〓〓 六五四	〓〓〓〓 六五四	〓〓〓〓 六五四
〓〓〓〓 農業 農村家庭	〓〓〓〓 農業 農村家庭	〓〓〓〓 農業 農村家庭	〓〓〓〓 農業 農村家庭	〓〓〓〓 農業 農村家庭	〓〓〓〓 農業 農村家庭	〓〓〓〓 農業 農村家庭	〓〓〓〓 農業 農村家庭	〓〓〓〓 農業 農村家庭
三四四〇 七六	五七九 五五八	一三四 四一	二四 六八〇	五五 四一四	三五五 三五五	二一四 七八一	二四三 四二八	三一一 〇六三
四四三 三四五	五七七 二一一	二二三 七五五	一三二 六一〇	二四一 四一六	二三八 八五八	一一一 一五二	三三四 五一〇	二一一 〇二一
四三二 〇〇九	五六六 七二八	三二三 四九四	二一三 九六一	四一一 〇五〇	三三二 三六九	二一一 〇〇六	二二三 九八五	一一 〇八八
二二二 九六七	五六四 七七八	二二二 二五八	一一二 六五〇	一一一 五九〇	三二二 二六四	一一二 〇五五	三三二 七二二	一一 八八九
一一一 四四三 二七七	二二二 二六八 一九五	一一一 九二三 三三八	一一一 七〇一 四〇一	一一一 八二〇 三六〇	一一一 二五四 六二六	一一一 六六九 八八四	一一一 二四三 五三五	一一一 七五六 八四一
一一一 〇〇〇	四四四 〇〇〇	一一一 六六六 〇〇〇	一一一 六六六 〇〇〇	一一一 六六六 〇〇〇	一一一 六六六 〇〇〇	一一一 六六六 〇〇〇	一一一 六六六 〇〇〇	一一一 六六六 〇〇〇
一一一 一八二 四三五	五七 七五 七三三	五七 八六 六九三	四六 六二 九三四	六〇 八九 五三二	七九 九八 五〇三	五五 七八 六八七	〇一 一四 九二二	四三 三八 八八一

鳥取西校 夜間	区分	年度	課程	学年別生徒数				計	生徒定員	定員に對する現員の率	摘要
				一年	二年	三年	四年				
〓〓〓〓 六五四	〓〓〓〓 普通 商業	一一一 八〇一 四〇三	〓〓〓〓 農業	七八九 九五〇	七八八 七〇四	六七七 五六七	三三三 〇四六 五一四	四四四 〇〇〇 〇〇〇	七八九 六五・三三〇 %		

2 最近の建築工事を見ると、なかに、実験室として不完全と思はれるもの、岩美高等学校体育館の如く、基礎工事が不完全と思はれるもの、また、建築資材、特に新建築材を使用した雨樋などのき損が各校で見受けられる。

建築工事の設計、資材の撰択及び施工監督については、一層慎重を期すべきである。

三 定時制教育の運営について

定時制課程は、独立の東伯及び日野実業高等学校のほか、全日制高等学校に併設九（本校併設四、分校五）を以て運営しており、最近三箇年間の学校別在籍生徒数は左表のとおりである。三十六年度は高等学校進学適令者が、最低の年ではあつたが、僅かに数名しか

定時制高等学校 在籍生徒数調

志望者が無い学校があり、鳥取農業高等学校美和分校及び米子南高等学校境港分校を除けば、他はすべて相当定員を下廻り、しかも、定時制本来の趣旨に添う生徒が少く、なかには、二学年進学時には全日制に受替える予備校的な色彩の強い学校もあり、中途退学者も少くない。

鳥取西、倉吉東、米子東、境、各高等学校夜間部は別として、他の学校については、教育並びに財政効率面から見て、統合或は本校に吸収することが適当と思はれる学校もあるので、この点検討善処すると共に、施設設備の整備、生徒、父兄及び雇傭主との接觸に努力し、定時制本来の充実した教育が実施されるよう格別の配慮を望む。

合 計	阿 尾 縁 分 校	矢 野 分 校	溝 口 分 校	日 野 実 業 高 校	境 夜 間 高 校
三三三 六五四	三三三 六五四	三三三 六五四	三三三 六五四	三三三 六五四	三三三 六五四
	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃 農業 農村家庭	〃 普通
三五六 五八七 二七九	一一二 四三一	二二二 八五二	二二二 五三七	二二二 六七〇	二二二 六三〇
四五四 四三七 六一一	二 九〇六	二二一 三二七	三三三 〇三八	二二二 七九二	二二二 一一〇
四四四 四一四 七八四	一 八五八	一一一 九七五	二二二 七四九	二二二 六八八	二二二 九五〇
三三三 七九七 三〇一	四八九	一一一 七五四	二二二 〇五〇	二二二 一六八	二二二 五四九
六六六 九二六 四七四	三四四 五六四	六七六 六九八	七九九 二五四	一 七〇九 五〇八	八八八 一四九
四四四 八八八 〇〇〇	八八八 〇〇〇	二二二 〇〇〇	二二二 〇〇〇	二二二 〇〇〇	二二二 〇〇〇
六七七 六七九 三二二	四五五 三七五 八五〇	五六五 五五六 〇八七	六七七 〇九八 〇二二	六八八 二三一 五三七	六七七 七〇四 五〇一

四 進学並びに生活指導について

1 本年度課程別卒業生の進学状況は、左表のとおりで、進学志望者一、六一三名、このうち進学者九三三名、進学率は前年度と同程度で五七・八%となっているが、内容を見ると短大の上昇に反し大学進学

率はむしろ低下している、指導経費に制約を受ける面もうかがはれたが、補習指導の強化に一層の配意を望む。

県立高等学校卒業生進学状況調査

年度	区分	課程別	卒業生数	進 学		短 大		合 計	摘 要
				志望者数	進学者数	志望者に対する進学率	進学者に対する進学率		
三三三	五	普通	五、二四五	一、一八二	五二八	二四八	七六六	六四・八	
三三三	四	家庭	五、九四一	一、三八八	六二七	二九五	九二二	六六・四	
三三三	三	商業	五、六八五	一、五一一	六五四	二二一	八六七	五七・三	
三三三	二	工業	六、一六一	一、六一三	六九一	二四二	九三三	五七・八	
		商業							
		農業							
		水産							
		定時制							

三十五年度の課程別内訳

普通	家庭	商業	工業	農業	水産	定時制
二、八九五	三六一	五四二	大二六	一、二〇四	一一二	四二二
一、四九一	二六	二〇	一四	四六	二	一四
六四四	一	一三	七	一九	二	六
四三・二	四五・〇	四五・一	四三・二	四二・八	四二・九	四二・九
一九九	二二	三	一七	一	一	一
一三・三	八四・六	一五・〇	三七・〇	七・一	七・一	七・一
八四三	二二	一六	三七	三六	二	七
五六・五	八四・六	八〇・〇	五〇・〇	七八・二	〇・〇	〇・〇

2 過去四箇年の県下で発生した高等学校生徒の犯罪並びに虞犯事件数(鳥取県警察本部犯罪統計書による。もつともこれは私立学校生徒等を含んでいる。)

は左表のとおりで、年々増加の傾向をたどっている。生徒補導については、各校とも努力しているが、なお格差があり、また、なかには、校舎狭いのため

補導室のない学校も見受けられる。補導体制を一層強化し指導に万全を期されたい。

年別	犯罪		虞犯行為		計	摘要
	男	女	男	女		
三二	四三	一一	一一	一一	二〇六	
三三	五八	一一	一一	一一	二二三	
三四	六九	一一	一一	一一	二六一	
三五	一〇三	一一	一一	一一	三一〇	

五 財産管理について

校舍敷地、実習地等校地のうちには境界を明確にしておく必要のあるもの、移転登記の促進を要するもの、地目変換等整理の要があるもの、過去において地元とのいきさつがあつて借上契約のないもの、借上契約の内容と使用の実態が相違しているもの等種々懸案となつているものが少くない。逐次調査整理し、管理の万全を期すべきである。また、借用地のうちには年次計画によつて早期買収す

ることが得策であるものが少くない。

六 需用費及び旅費について

1 最近三箇年間の需用費支出額は、左表のとおりで、本年度県費需用費は前年度よりも八九〇千余円多く生徒一人当り四六円の増加となつてゐる。しかしながら、物価の値上り等を考慮に入れると、それ程ののびとは思われず、PTA等団体の負担額を見ても年々増加し、団体負担割合はむしろ前年度を上廻る実情である。

団体負担の軽減措置については一層配慮の要がある。また、執行状況を見ると、一般需用費に追われて実験実習のための消耗器材は全然購入していない学校も見受けた。絶対額が少くやむを得ない面もあるが予算編成の趣旨に添ひ執行すべきである。

なお、暖房用燃料の適期購入等効率の執行については一層配慮すべきものがある。

需用費支出額調

年度	県費支出額	支P 出T 額A	計	生徒一人 当県費 需用費 負担割合	要 摘
三三	一五,四〇九,〇〇〇円	三,三三三,〇〇〇円	一八,七四二,〇〇〇円	七五・二%	
三四	一八,八〇〇,〇〇〇円	二,四六六,〇〇〇円	二一,二六六,〇〇〇円	七五・六%	
三五	一六,六九七,〇〇〇円	二,二三三,〇〇〇円	一八,九三〇,〇〇〇円	八四・七%	

2 高等学校費は、前年度同様一人当三、五〇〇円(赴任旅費を含む)で、各校とも諸会議等義務的経費に追われて、職員研修、巡回指導、就職斡旋に要する旅費が不足している。年度末に予算流用措置して、若干増額考慮がなされていたが、六〇%程度を外かく団体に依存しており、中国各県に比して低位にあるので、更に適切な予算措置につき当局の配慮を望む。

七 事務処理について

1 營繕工事等の実施に当り、一工事費に県費と外かく団体経費を充て施行するため、設計書の作成、工事の入札、契約等事務処理に不合理の面がある。

団体負担分については、寄附金として受入れ予算措置する等合理的な執行を図るべきである。なお、学校で実施する小管繕工事については、前回の監査で指摘したとおり、設計、見積、契約等の事務処理に適切を欠く点を見かけたので一層適正化に努められたい。

2 産業教育振興法並びに理科教育振興法による、各種設備、備品の購入状況を見ると、事務処理が甚しく遅れ、各校とも年度末も差迫つて購入している。主管課と学校で分割購入している。現在の購入方法にも原因があると思われるので、更に、能率的な処理方法を考究し、早期導入活用を図るべきである。

3 特別会計の事務処理状況を見ると、生産物についての各校の解釈が統一を欠いて、なかには、同一品目を引継いでいる学校と、引継いでいない学校があり、取扱いがまちまちになつてゐるものがある。製麺その他各種委託加工手数料収入事務処理に検討を要するものがある。耕種表並びにその実施記録の

倉根日倉八境東 吉野吉東伯 農業雨業東頭業	高等学校名	月別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二、三月	平均
倉吉農	倉吉東頭	八、二	八、五、九	八、九、七	八、九、七	八、九、七	八、九、七	八、九、七	八、九、七	八、九、七	八、九、七	八、九、七	八、九、七	八、九、七
日野東	日野東頭	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
八吉東	八吉東頭	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
境東頭	境東頭	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
東伯業	東伯業	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
鳥取商業	鳥取商業	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
岩取工業	岩取工業	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
八頭林業	八頭林業	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
智野林業	智野林業	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
日野林業	日野林業	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
境東頭	境東頭	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
米子東頭	米子東頭	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
鳥取東頭	鳥取東頭	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
米子東頭	米子東頭	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
法勝寺	法勝寺	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九
平均	平均	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九	八、三、九

(定時制)

青鳥鳥由米倉米境倉根河養 取取良子吉子吉北業 谷東西英西南東雨北業	高等学校名	月別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二、三月	平均
青島	青島	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八
鳥取	鳥取	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八
由良	由良	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八
米子	米子	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八
倉吉	倉吉	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八
米子	米子	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八
境東	境東	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八
倉吉	倉吉	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八
根北	根北	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八
河北	河北	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八
養良	養良	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八
平均	平均	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八	八、八、八

(全日制)

昭和三十五年度高等学校授業料当月内収納比調

不十分なものがある。飼料、肥料、加工原材料、転用物品の受払が不明確なものがある。等東に、適正処理に努力すべきものがあり、なお、現行の取扱規程が運用の実態に即せず、形式的な事務処理に流れている面もあるので、研究改善を望む。

4 授業料徴収状況

本年度の当月内授業料徴収状況は次表のとおりで、学校当局の努力により前年度に比し向上し、成績は好転しつつあるが、なお、低率なものも多いので、月内収納について一段の努力を払われたい。

(%)

鳥取農業	六三、四	七九、〇	七六、一	六〇、九	七〇、五	七〇、六	五二、二	九一、一	七、七	五〇、八	六、七
米子南	美、一	七六、九	七六、九	六五、〇	六八、八	六八、九	八四、二	五〇、〇	四〇、一	四〇、八	三、八
米子東	九、九	五、三	二九、三	四七、八	四七、四	三三、四	四九、〇	三三、五	七、五	四〇、〇	四、〇
鳥取西	一四、七	四、四	二四、〇	三〇、七	四四、五	三三、三	三九、〇	四〇、七	三、〇	四〇、八	三、八
平均	五、一	六九、一	六三、〇	六〇、一	七、七	六三、五	七九、五	六四、六	六七、五	六四、五	六、五

八 以上共通点について述べたが、特に、工業並びに農業高等学校については次の点検討善処すべきものがある。

工業高等学校について

1 年度工業課程の生徒定員は一、六八〇名、これに対し教員は一〇六名、このうち専門教員は五七名である。今後、生徒増によつて専門教員の増員は必然的な問題であるが、産業界の好況によつて理工科教員の採用困難の折柄、工業専門教員の確保については、特に配慮の要がある。また、実習助手の配置状況を見ると、各校とも文部省基準の半数にも達しない実情である。工業教育の特殊性から増員考りよの要がある。なお、一部の課程では身分、待遇等の問題で採用困難の面も見受けられた。所遇改善につい

ても考りよを望む。なお、本年度現職教員のうちから、数名を産業教育内地留学生として派遣し工業教員の養成に配慮していたが、研修費の増額についても考りよして研修強化を図る要がある。

2 県下の工業高等学校の建物は、全般に古く、しかも、狭あい、他の高等学校に比較して整備が遅れ、増改築の時期にきているものが少なくない。また、施設設備については樹業教育振興法の助成を得て、年々整備充実に努力しているが、施設充実率は左表のとおり基準の三九%程度で、内容設備も不足し、かつ、更新を要するものが多い。校舎の増改築と近代的な施設設備の充実につき格段の配慮の要がある。また、施設設備は年々充実を見つつあるが、運営費が追従しない憾がある。新設設備に要する運営経費

課程別	基準坪数	現有坪数	現有率	不足坪数	備 考
機械	一、七四一	八四〇	四九%	八九一	
電気	一、一〇一	五〇九	四六%	五九二	
電波通信	九二四	二三三	二五%	六九一	増産無縁通信を含む
建築	三六五	七五	二一%	二九〇	
土木	二七三	七二	二六%	二〇一	
金属化学	三三二	九二	二九%	二二九	
工業化学	四二五	二〇三	四八%	二二二	
計	五、一四〇	二、〇三三	三九%	三、一一七	

の増額措置についても、考りよの要がある。
工業課程施設現有状況調

3 定時制教育の運営については、前述したとおり、慎重検討すべき時期に来ているが、地元産業発展助長のためにも、現在の昼間定時制に変わる夜間工業課程の設置について当局の検討を望む。

農業高等学校について

1 高等学校再編成によつて、三十六年度から一部農業高等学校の設置課程を変更していたが、将来方針が明確でないため、徒に社会不安を与えて正常な学

校運営を阻害している面もあり、また学校の整備が足踏みの状態にある点も見受けられた。高校再編成の基本線の確定は焦眉の急務である。

2 近時農業労力の不足と農業の近代化によつて営農上農村女子の果す役割は愈々大なるものがある。従つて農業高等学校における女子教育の在り方について重大転換期に在ると思考されるので慎重検討し遺漏なきを期されたい。

3 本年度実習会計の収支決算状況は、県下十校で収入額一九、四四八、一八〇円、支出額一七、二一六、五四四円で差引二、二三一、六三六円の黒字決算している。予算規模は、年々増大しているが、各校運営の実態を見ると、いずれも大同小異で旧態然とした観が見受けられる。農業構造改善の転換期に直面しているとき、農業教育の体質改善と、これに伴う施設設備の充実にについては、一層努力し、近代的な充実した農業教育が実施されるよう当局の配慮を望む。

また、生産収入をしられるため依然として労力実習になりがちである。独立採算にとられない予算の配分を考りよし実習教育運営の在り方につき工夫考りよの要がある。

なお、学校別の特記すべき事項は次のとおりである
(右以外の米子西高等学校ほか二十校は報告済み)

由良育英高等学校 昭和三十六年八月十六日監査
監査委員 松本利治
同 萩原治郎
同 堀江実蔵

施設設備名	構造	坪数又は量	金額	負担区分		摘要
				県費	P T A 等	
職員便所	木造平屋建	三、五坪	一八〇、〇〇〇円	二〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	
防火水槽			一八八、〇〇〇	一八八、〇〇〇		
渡廊下舗装			四〇、〇〇〇		四〇、〇〇〇	
理科備品			二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇		理振法
幻灯機			九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇		
ミシン			四九、八〇〇	四九、八〇〇		

2 他の高校では体育館のほか講堂又は旧体育館等何等かの建物体育用建物があるのが多いが本校は体育

館一つしかなく、特に雨天の場合の体育授業並びにクラブ活動に支障を生じている。生徒急増対策とも

あわせ勘案し、小体育館の整備につき当局の考りよを望む。また、家庭科染色室がなく、やむを得ず物を置を改造して間に合せているがこれについても整備の要がある。

二 昨年七月盗難にあつて団体の経費が若干被害を受けていたが、本校は鉄道沿線にある等悪条件下にあるので常時の財産等管理について一層の配意を望む。

三 経理出納その他事務処理について次の点留意されたい。

1 物品購入 見積書が形式的である。

2 正面通学道路の所有権を明確にしておくこと。

東伯実業高等学校 昭和三十六年八月十七日監査
監査委員 松本利治
同 萩原治郎
同 堀江実蔵

一 施設設備の整備充実について
1 本年度整備した主な施設設備は、左表のとおりである。

校舎名	施設設備名	構造	坪数	金額	負担区分		摘要
					県費	P T A 等	
赤碕	体育館 兼講堂	鉄骨スレート葺、平屋建	一六五、六	五、六〇、〇〇〇円	四、七三八、〇〇〇	一、八三二、〇〇〇	
渡	校舎 塗装	木造トタン葺	二	三八、〇〇〇	三八、〇〇〇		
理科その他備品			四四一	一三五、〇〇〇	一三五、〇〇〇		
体育館内容設備			四四〇	四四〇、〇〇〇	四四〇、〇〇〇		
電気冷蔵庫			一	七〇、五〇〇	七〇、五〇〇		

赤碕、八橋
定振法

〃	〃	八橋	〃
キニツ	理科	キニツ	キニツ
チツ	備品	チツ	チツ
ト		ト	ト
〃	〃	〃	〃
ミ	シ	ミ	ミ
ン	ン	ン	ン
〃	〃	〃	〃
オル	ガ	オル	ガ
ガン	ン	ガン	ン
一	二	一	二
五〇、〇〇〇	八六、〇〇〇	五〇、〇〇〇	八六、〇〇〇
六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇
五三、七〇〇	五三、七〇〇	五三、七〇〇	五三、七〇〇
定振法	赤碕一	赤碕二	赤碕、八橋
各一			

2 赤碕校舎は、校地が狭あいで教育運営に支障となつてゐる。地元町でも拡張につき考りよ中であつたが、これが促進につき努力されたい。測溝等排水施設にも工夫を要する。

3 理科室が不足し、特に八橋校舎には全然ない。また八橋校舎の便所は男女合同で一箇所しかない。これらについて早期整備の要がある。

二 実習教育運営について
三十六年度赤碕校舎に農産加工室の整備が内定してゐた。実習教育内容は味噌醸造を主体とした計画が進められていたが、現下この種計画は時代遅れの憾がある。原に慎重検討し、真に地方産業にマツチする農産加工実習に考りよの要がある。また農業校としては温室、

畜舎等の施設も必要であらう。

三 本校今後の運営について、学校側は一学級増と農産畜産、果樹を撰択科目とする体質の改善を考りよし地元側は、赤碕校舎に商業科程、八橋校舎に木材工芸科程を設置されたい意嚮のようであつたが、高校の整理統廃合及び生徒急増対策の一連の施策のもとに遺漏なきを期されたい。

四 経理出納事務処理について
授業料の徴収率は、非常に良い月と、かなり低下する月とが見受けられる。期限内収納に努力されたい。なお八橋校舎の収納も出納員が行うようにされたい。

根雨高等学校 昭和三十六年八月二十一日監査
監査委員 松本利治
同 萩原治郎
同 堀江実蔵

一 施設設備の整備充実について
1 本年度整備した主な施設設備の状況は、左表のとおりである。

施設設備名	構造	坪数	金額	負担率	P T A 等	摘要
校長室、被服室等増改築	木造平屋建	二〇坪	四〇〇、〇〇〇円	一〇〇、〇〇〇円	三三〇、〇〇〇円	
寄宿舎屋根補修			二二、六九〇	五、七五〇	一六、九四〇	
求道拡張			二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇		
図書館改造			四〇、七四五		四〇、七四五	
校内電気配線			五〇、〇〇〇		五〇、〇〇〇	
調理室プロパン設備			四三、六九五		四三、六九五	
理科備品			二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇		理振法
洋裁台		一四	七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇		
音楽室椅子		一五	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇		

- 2 三十六年度産振法による家庭科研修室の新築が内定していたが、音楽室、西便所の改築並びに講堂床板張替えが残されており、校舍塗装の必要にも迫られているので、これら整備につき当局の考りよを望むまた、理科室は、監査当時改築中で、内容設備についても、本年度産振法の適用を受け二十万円で備品を購入していたが、なお、机等旧式のものが多く更に充実の要がある。
- 二 本校は教室にも余力あり一学級増募を希望していたが、郡内他の二校との関連もあり生徒急増対策の措置経過を見て最終的決定をすることが妥当と考へられる。
- 三 経理出納その他事務処理について次の点留意された。
 - 1 生徒の転退学等の事務処理は一層適正を期すること。
 - 2 物品購入にあたって購入伺のないもの、見積書が不足しているものがあつた。なお、物品購入伺簿の

- 記帳整理は一層正確を期すること。
- 3 予算流用伺がしてなかつた。
 - 4 営繕工事の実施にあつて、設計仕様書の作成、見積、契約等の事務処理が適切でないものがあつた。なお、支出科目の適切と認めがたいものがあつた。
- 日野実業高等学校 昭和三十六年八月二十三日 監査
 監査委員 松、本利治
 同 荻原治郎
 同 堀江実蔵
- 一 施設設備の整備充実について
 - 1 本年度整備した主な施設設備の状況は、左表のとおりである。

校舎別	施設設備名	構造	坪数	金額	負担率	P T A 等	摘要
江府	水道改修増設			四〇,〇〇〇円	四〇,〇〇〇		
"	校道改修			一〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	
"	保健室間仕切			一六,六二九			
"	理科その他備品			三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇		定通振興法
溝口	理科備品			一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇		"
矢戸	電気設備			一〇三,〇〇〇	九〇,〇〇〇	一三,〇〇〇	
"	理科その他備品			二一〇,〇〇〇	二一〇,〇〇〇		定通振興法
阿毘緑	電気増設			一四,〇〇〇	一四,〇〇〇		
"	撰果機その他			三〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	産振法
"	理科その他備品			二六〇,〇〇〇	二六〇,〇〇〇		定通振興法
"	視聴覚設備			五九,〇〇〇	五九,〇〇〇		

2 江府校舎は本年度から元江尾中学校跡に移転し、教育環境が著しく良くなつたことは結構である。しかしながら、講堂、体育館がなく、諸行事並びに体育の練成に支障を生じているので、これが整備が急務である。理科実験室、農産加工室及び農具倉等に

についても漸次考りよされるべきである。溝口分校に温室、矢戸分校に農具倉兼作業室の整備が急がれており阿毘緑分校のりんご加工設備及び調理室についても早期整備の要がある。

3 防火施設は各校舎とも見るべきものがない。特に

高台にあつて水利の便の悪い江府校舍阿毘緑分校については、貯水槽を設ける等防火対策が急がれる。

4 本校は、ホームプロジェクト強化による実習教育の向上に努力しているが、巡回指導のための機動力(オートバイ)不足で困っている。三十六年度に江府校舍一台(県費七五、〇〇〇円地元援助費二五、〇〇〇円)、溝口分校一台(金額地元援助費)購入していたが、各校舎とも二台程度整備につき当局の配意を望む。

二 分校の統合について

各校舎整備に対する地元協力には敬意を表するが、江府校舍と溝口分校並びに矢戸分校と阿毘緑分校の統合については、毎回監査で指摘しているとおりで、行財政効率面から慎重検討し教育効果の向上を期せられるよう重ねて要望する。なお溝口分校の前期終了だけで退校していた姿が殆んど跡を絶つたと認められることは結構であつて生徒父兄の理解は元よりであるが、学校当局の労を多としたい。

三 経理出納その他事務処理について、次の点注意されたい。

- 1 物品購入伺のないものがあつた。購入伺簿の記帳整理を厳正にすること。
- 2 予算流用伺がしてなかつた。
- 3 物品貸与簿を整理すること。
- 4 電気配線等の工事实施に当つて、見積書が不足しているもの、事務処理の適切でないものがあつた。

鳥取育学校

昭和三十六年八月二十五日監査

監査委員 松 本 利 治

同 萩 原 治 郎

同 堀 江 実 蔵

一 教職員の充実強化について

教職員については、本年度四名、三十六年度二名増員となり、年々考慮が払われているが、なお、高等部教員が不足している。殊に、職員定数決定が遅れるため理療科教員の採用に時期を失し、三十六年度も別科設

置により一名増員があつたが未補充であつた。また、実習助手の配置もなく、教育運営に支障を生じている。教職員の充実強化につき当局の考りよを望む。

二 施設設備の整備について

1 普通教室は基準に対し不足四、種々工夫して不便を忍んでいる。勿論家庭科、物理化学、同準備室、工作室の特別教室はない。当局の善処を望む。

三十六年度から懸案の別科が設置され、三二二万円を別科のための施設(寄宿舎一一五坪)を建築中であつた。

2 グランドは、ろう学校と共同使用で、狭あいであつたがしかも、今般の別科施設の建築でそれだけ更に面積が狭つた。隣接土地の割愛方につき關係先に折衝の結果、換地が可能であれば実現の見通のようであつた。これが確保につき、更に努力されたい。

3 倉庫がなく廊下に格納しているものもあつた。設置の要がある、また排水溝蓋の修理、中庭の整地等配慮し児童、生徒の危険防止に留意されたい。

三 需用費の増額について

需用費については、消費的経費が不足し、特に修繕費が少く備品の修繕にもこと欠く実情である。また暖房用燃料については、本年度増額考りよが払われていたが、石炭はストーブ一台当り〇、五屯程度で、志習のあい路となつている。後援団体の援助も望めないのに更に適切な予算措置の要がある。

四 就学奨励について

児童生徒の収容能力と就学奨励とが連関することは勿論であるがそれにして先天的視力障害手帳交付数年二十余に対し本校入学者二、四名の実状は就学奨励に更に積極的であるべき余地が残されているものと考えられる。

なお専攻科の食費滞納の問題があるが、就学奨励法の強化について一層国へ働きかけるとともに暫定的措置について県の配意を望む。

岩美高等学校

昭和三十六年八月二十八日 監査

監査委員 松本利治
同 萩原治郎
同 堀江実藏

一 施設設備の整備充実について

1 本年度整備した主な施設設備は、左表のとおりである。

施設名	設置構造	坪数又は量	金額	負担区分	
				県費	P.T.A.等
旧校舎天		五〇坪	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	
井張替					
グラウンド		二反六歩	一八〇,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	
埋立土砂					
採取場					
下駄箱		三四、四四〇	三四、四四〇	三四、四四〇	

2 懸案となっていたグラウンドの整備は、地元町の後助で実現し、工事は監査当時自衛隊により行われていたが、これに伴って農業科附属建物の嵩上げの必要を生じていた。これが整備につき当局の考りよを

望む。

3 旧校舎は、元邑法実校を移築したもので、破損甚しく毎年補修しているが階下床の張り替えが残されている。また、旧便所も、同時に移築したもので朽化している。これらの補修改築につき当局の配意を望む。

4 理科室は、準備室が一室しかなく、しかも普通教室に兼用しているため理科教育に支障を生じている。三十六年度から普通科(募集定員五〇名)を新設し、農業科のうち家庭課程は募集停止して運営していたが、普通科新設に伴って理科室の整備が痛感される。科学教育振興の面から早期に整備の要がある。

一 特別会計の運営について

実習会計の收支状況を見ると、当初収入計画四〇二、〇〇〇円に対し、仔豚の生産増等による畜産部門の増収があつて実績は五五五、〇三四円、支出額は四七二、七〇六円で差引八二、三二八円の黒字決算をしている。実習は場は水田六反一畝五歩、畑一反八畝一〇歩、演

三 経理出納その他事務処理について次の点留意された

- 1 生産収入の基礎、生産物の引継処分、飼料及び加工原材料の受払を一層明確にすること。
- 2 調定元帳は科目別に区分し収納手入は厳正にすること。
- 3 生産物引継伝票の整理並びに処分金額の正確を期すること。

4 昭和三十五年度中に分収造林一町歩を実施し、松及び杉三、五〇〇本の植付を完了していたが、施行地は三八一名の共有地であり、その代表者と仮契約を行つたのみであるので、本契約の締結を急がれた

い。

鳥取ろう学校

昭和三十六年八月三十日 監査

監査委員 松本利治
同 萩原治郎

一 生徒の入学勸奨について

生徒の入学勸奨については、努力を払い、三十六年度は、小学部一年生九名、高等部一年生一名計十名(正式手続によるもの五名、学校調査勸奨によるもの五名)を入学させていたが、文部省の調査資料に基づく本県の推定就学率は五二・四％で、全国平均七〇・三％よりも低く中、四国各県に比しても最下位にあり、特に県内西部地区が低調である。入学勸奨については、毎回の監査で指摘しており、就学率が低い原因は種々あるが、地教委の協力熱意が薄いことが主因の一つであると考えられるので、地教委指導に重点を指向し協力体制の確立と対象の実態把握に県教委当局の努力を重ねて要望する。

二 教職員について

教職員の充実強化について、特に高等部普通教科教員が不足し、

職業科専任教員も木工、表具、被服の三課程に対し二名しか配当されていない。また、実習助手の配当もなく補助職員が一名いるが低賃金である。その他ろろ教育専門教員を採用した時期を失する面もあり、教員の質的改善に支障を生じている。教職員の充実強化につき当局の配意を望む。

三 施設設備の整備充実について

1 寄宿舎及び給食堂がなく、学校運営上のあいりとなつてゐる。他府県のろろ学校全校が有している本施設を本校だけが持たない現状については真剣に検討すべきである。

2 律唱室、聴能訓練室、理科室、図工室、保健室はいずれも内容設備が貧弱である。木材工芸室、被服室も狭あいで、表具室は普通教室を転用したものであり、かつ木材工芸室の設備は基準の一〇%程度である。また、体育館兼講堂、図書館もなく倉庫、自転車置場も不備である。逐次整備充実を望む。尤も寄宿舎及給食堂乃至特別教室整備の場合現在小学部

五学年、中学部一、二学年が夫々二ヶ学級編成となつてゐるが、これを各一ヶ学級に縮小して現有建物を効率的に使用する不便は学校側としても暫定的には忍ぶべきであらう。

3 外欄の設備、排水溝の整備、運動場の土入れについても考りよの要がある。

4 校舎の雨もり箇所修繕については、三十六年度に一部加工することになつてゐた。

四 職業教育運営について高等部職業教育として木材工芸、被服、表具の三課程をおいて運営しているが、理容課程を希望するものがあり、三十六年度はテストケースとして理容学校に三名入学させていた。また、表具課程を希望する生徒は殆んどない実情である。中小企業と直結し時代に即応した職業課程の設置については特に配りよし、更に適切な教育を図る要がある。

五 経理出納その他事務処理について次の点留意された

1 就学奨励費の交付が甚しく遅れていた(教科書代は三十五年十二月に支払、通学費は三十六年一月に交付、教材教具費は三十六年三月に交付)。経費の性質上早期に交付すべきである。なお交付事務処理は一層明確にすること。

2 修繕工事において、相見積のないものがあつた。

3 通動手当確認簿を整備すること。

4 原文料の受払簿を整備すること。